

「悲しみを乗り越えて」

坂 佳子

昨年、息子に先立たれた私の友人は、つい数か月前まで毎日が悲しみと絶望でいっぱいだったと言います。

ただただ、心の中に大きく空いてしまった胸の内をぼつりぼつりと話してくれました。

葬儀を済ませて数ヶ月、「いまだに力が湧いてこないから、家の中ばかりに閉じこもっている」とのことでした。何を見ても悲しみがこみ上げ、深まるばかりで、

「あの時、息子にああすれば良かった、なぜもっと早く気づいて治療してあげられなかったのか」と自分を責めてしまうと…

涙を浮かべて話されるのでした。

交際10年目に、死の覚悟の上で、結婚されたお嫁さんから、息子さんの死後に、一緒に暮らしたいとの申し出があり、今は、お嫁さんとご主人との3人で暮らしていらっしゃるとのことでした。

一緒に住めるようになって、ありがたい「ご縁」をいただいたと話されます。

息子はもういませんが、嫁から、生前の親の知らなかった話を聞き心が安らぐのだそうです。生きる喜びが持てるようになったと話されました。

暮れには、大垣別院の報恩講にも参詣し、仏教讃歌の合唱を聞いて元気が出たとの連絡があり、私も嬉しくなりました。

みやぎしずか
宮城 巎さんが、次のように言っておられます。

一切は縁において生まれ

縁においてあり

縁において去っていく

人は人との関わりの中で生かされています。

このご縁を大切に、今を明るく生きたいです。